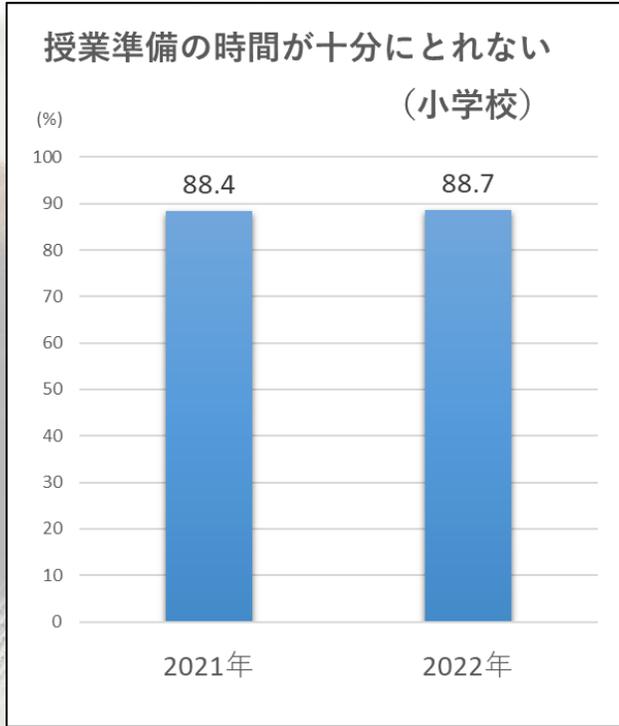


愛媛大学教職大学院 研究発表大会2024 SESSION I  
課題研究報告〔第I部〕第I部会ウェルビーイング・人材育成

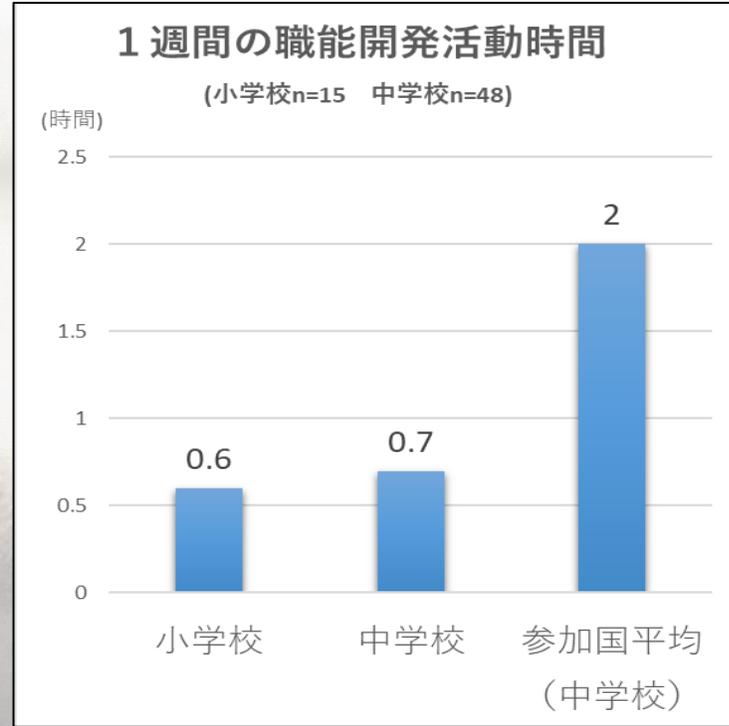
# 児童と教員の学習エンゲイジメントを高める組織開発 — 同僚性を生かした持続可能な授業改善 —

愛媛大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻  
リーダーシップ開発コース 小川 智也  
指導教員 露口 健司 高橋 葉子

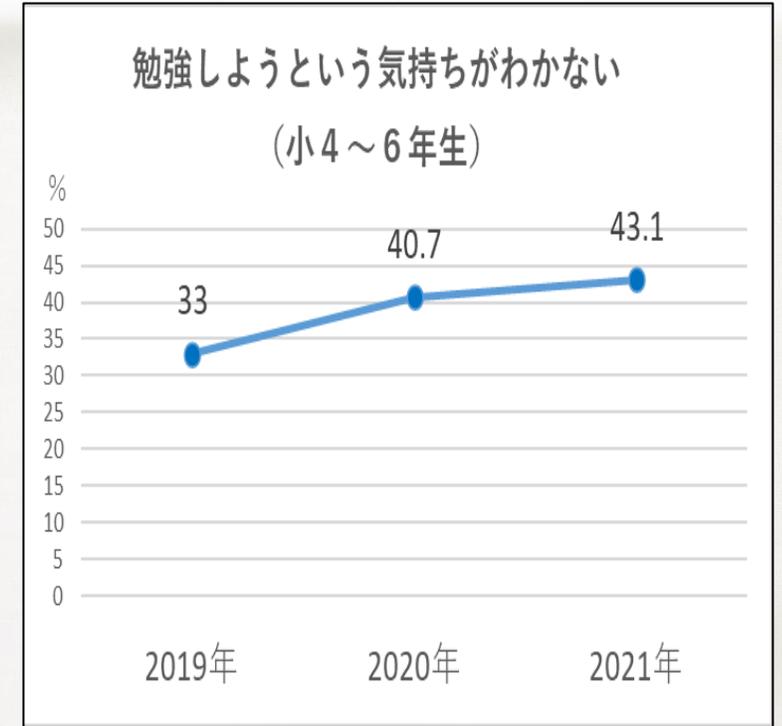
# 背景



ベネッセ教育総合研究所  
「小中高校の学習指導に関する調査2022」より作成



TALIS2018報告書「学び続ける教員と校長」より作成



ベネッセ教育総合研究所  
「子どもの生活と学びに関する親子調査2021」より作成

教員の多忙化

学習意欲の低下

# 背景

## 「新たな教師の学びの姿」の実現

4. 今後の改革の方向性

- 子供たちの学び（授業観・学習観）とともに**教師自身の学び（研修観）を転換し、「新たな教師の学びの姿」（個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び）」を実現**
- 養成段階を含めた教職生活を通じた学びにおける、「**理論と実践の往還**」の実現（理論知（学問知）と実践知などの「二項対立」の陥穽に陥らない）

学習指導  
に主として関するもの

- ・ 関係法令、学習指導要領及び子供の心身の発達や学習過程に関する理解に基づき、子供たちの「**主体的・対話的で深い学び**」の実現に向けた**授業改善**を行うなど、「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」の一体的な充実に向けて、**学習者中心の授業を創造**することができる。
- ・ **カリキュラム・マネジメント**の意義を理解し、教科等横断的な視点や教育課程の評価、人的・物的な体制の確保・改善等の観点をもって、組織的かつ計画的に教育課程を編成・実施し、常に学校の実態に応じて改善しようとしている。
- ・ **子供の興味・関心を引き出す教材研究**や、他の教師と**協働した授業研究**などを行いながら、**授業設計・実践・評価・改善等**を行うことができる。
- ・ 各教科等においてそれぞれの特質に応じた見方・考え方を働かせながら、資質・能力を育むために必要となる各教科等の**専門的知識**を身に付けている。

「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について

学び（研修観）の  
転換

主体的・対話的で  
深い学び

探究心

協働した  
授業研究

校内研修の  
活性化

新たな教師の学びの姿

授業設計  
実践  
評価  
改善等

興味・関心を引き出す  
教材研究

理論と実践の  
往還

自律的かつ  
継続的な学び

# 学習エンゲイジメントについて (櫻井2020)

## 学習(学びの)エンゲイジメント定義

課題に**没頭**して取り組んでいる心理状態で、言い換えれば、**興味や楽しさ**を感じながら気持ちを課題に**集中**させ、その解決に向けて持続的に**努力**をしている心理状態

**学習エンゲイジメント** ≡ **主体的に学習に取り組む態度**

## 学習エンゲイジメントの4つの要素

- ① **感情的エンゲイジメント**  
興味や楽しさといったポジティブな感情を伴って取り組んでいることあるいはその態度
- ② **認知的エンゲイジメント**  
ものごとを深く理解しよう、ハイレベルの技能を身につけようといった目的(意図)や目標をもち、自分の学習活動についてきちんと計画し、モニターし、そして自己評価するような問題解決プロセスとして取り組んでいることあるいはその態度
- ③ **行動的エンゲイジメント**  
課題に注意を向け努力し粘り強く取り組んでいることあるいはその態度
- ④ **社会的エンゲイジメント**  
周囲の人と協力したり助け合ったりして取り組んでいることあるいはその態度

# 先行研究

## 学習エンゲイジメントと自己効力感

櫻井(2020)は、「主体的に学習に取り組む態度」の要素を**学習エンゲイジメント**と**自己効力感**とし、これらがうまく働くことによって新学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」が実現され、**学業成績が向上し、思考力や創造力も高まる**と述べている。

## 自信(自己効力感)と学習意欲の関係

「自信が皆無であれば希望や見通しを持つことができず意欲的にはなれないだろう。最低限の**自信が持てる**ということが、**学習意欲が生じるための条件**なのである。」(鹿毛2013)

## 教師の学習意欲が学習者に及ぼす影響

「学習者の意欲を規定する重要な要因の一つは、教師の教育専門職としての学習意欲にほかならない。教師の意欲はよりよい教育実践を創りだす。そして、その実践を通して学習者の意欲的な姿が現れる。さらに、その姿に手応えを感じ取った教師はさらに優れた実践を実現しようとますます意欲的になっていく。」(鹿毛2013)

職能成長

学力向上



授業力向上

日常的な  
授業交流

教科理論

題材との  
出会い

主体性を  
見取る評価

振り返りの  
充実

学習エンゲイジメント  
自己効力感

学習エンゲイジメント  
自己効力感

教員

児童



# 研究の目的・課題

## 研究の目的

授業改善の取組を通して、児童と教員の学習エンゲイジメントを高める方法を明らかにする。

## 研究課題

- 1 同僚性を生かした日常的な授業交流を行えば、教員の学習エンゲイジメントは高まるか。
- 2 教員の課題とニーズに合わせたOJTを行えば、教員の学習エンゲイジメントは高まるか。
- 3 児童の学習エンゲイジメントを高めるために、どのような取組を行えばよいのか。

# 研究方法・内容

## 1 教員と児童の意識調査

A市の全小学校教員と3年生以上の児童を対象に、6月と12月にGoogleフォームにてアンケートを実施

〈教員用〉 全て5件法

- ・感情的エンゲイジメント 3項目
- ・認知的エンゲイジメント 4項目
- ・行動的エンゲイジメント 5項目
- ・社会的エンゲイジメント 6項目
- ・学級経営に関する自己効力感 7項目
- ・指導方法に関する自己効力感 8項目
- ・児童との関わりに関する自己効力感 7項目
- ・基礎データ(勤務校、担当学年、性別、年齢)



〈児童用 ※算数の学習に関して〉 全て5件法

- ・感情的エンゲイジメント 3項目
- ・認知的エンゲイジメント 4項目
- ・行動的エンゲイジメント 4項目
- ・社会的エンゲイジメント 4項目
- ・自己効力感 3項目
- ・基礎データ(所属校、学年、性別、出席番号)



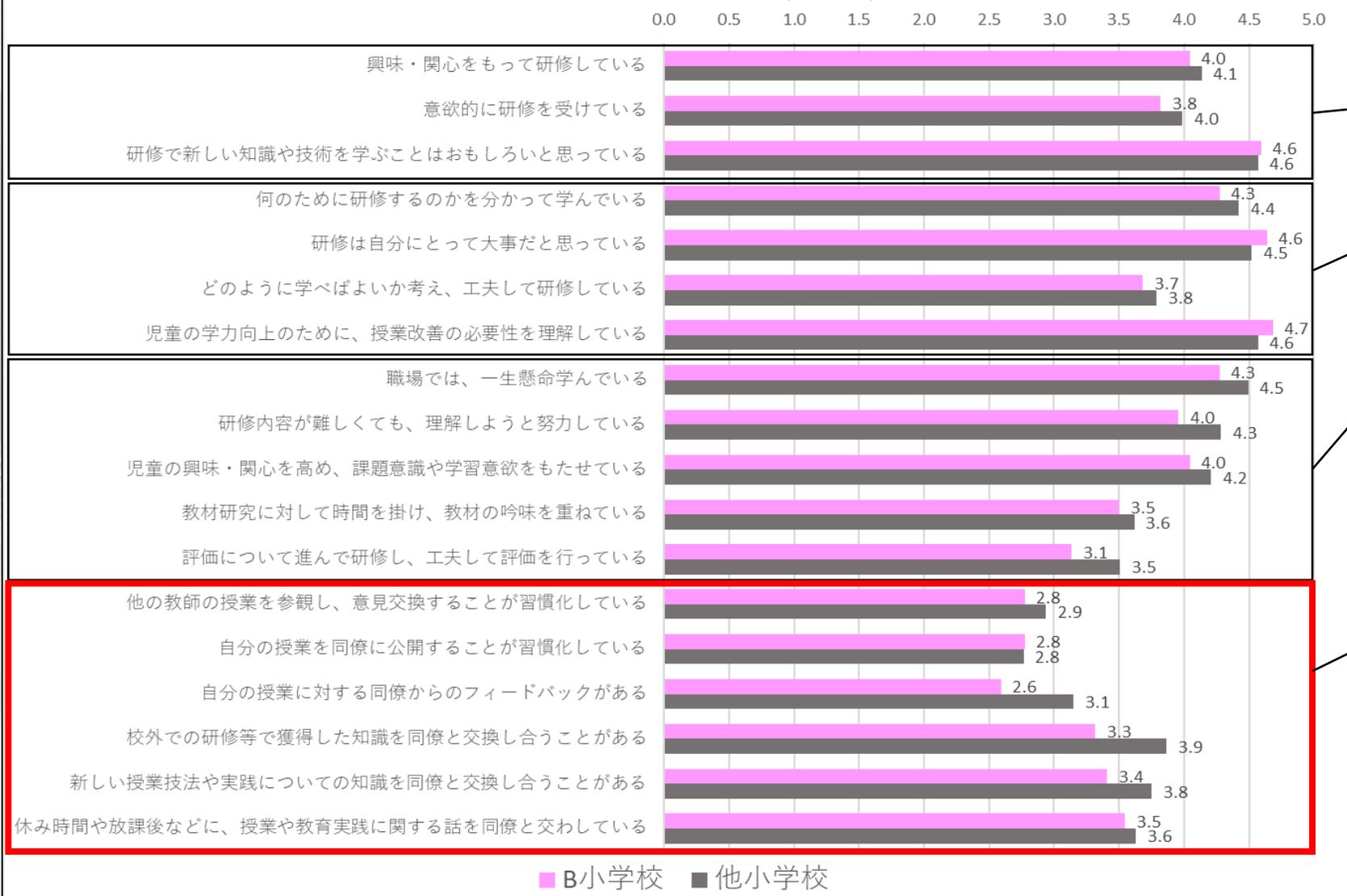
2 同僚性を生かした日常的な授業交流

3 教員の課題とニーズに合わせたOJT

4 「出会い」と「振り返り」に焦点を当てた授業改善

# 研究課題 I : B小学校の課題

## 教員の学習エンゲイジメント (平均) の比較 6月



感情的エンゲイジメント

認知的エンゲイジメント

行動的エンゲイジメント

多くの項目で他校を下回る

社会的エンゲイジメント

同僚性に関する項目が特に低い



同僚性を生かした取組が必要

# 研究課題Ⅰ：同僚性を生かした日常的な授業交流

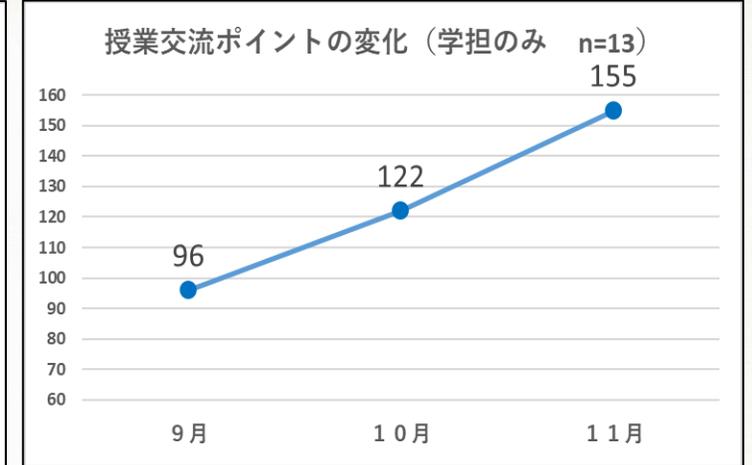
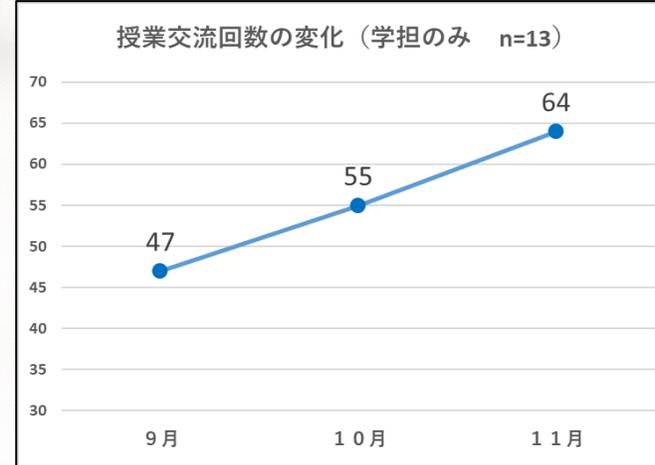
## 授業交流・・・授業を互いに参観したり、情報交換したりする取組

〈交流方法のレベルによるシール分けとポイント〉

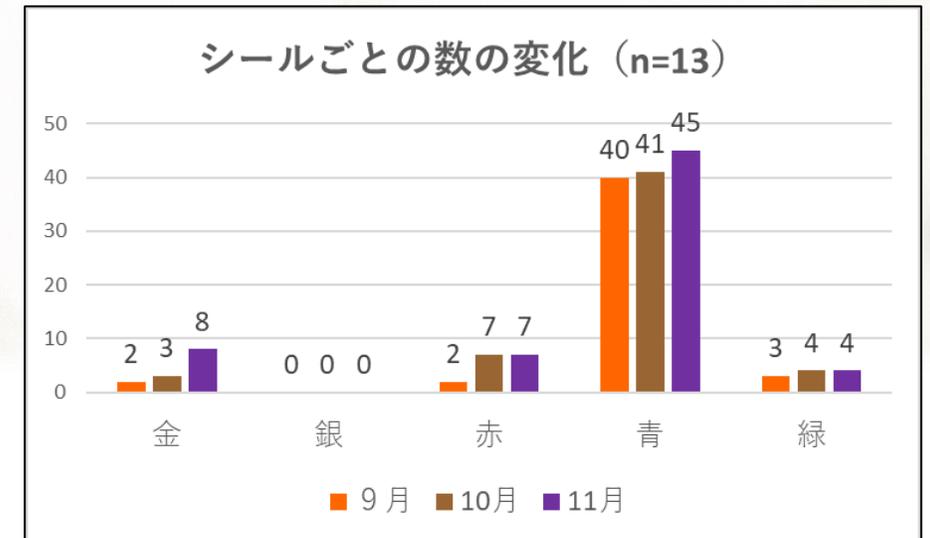
- 授業参観による交流 …… 金シール (5ポイント)
- 略案をもとにした交流 …… 銀シール (4ポイント)
- 板書写真をもとにした交流 …… 赤シール (3ポイント)
- 言葉だけの交流 …… 青シール (2ポイント)
- その他の方法での交流 …… 緑シール (1ポイント)

※週案にシールを貼り、月末に集計

- ※シールを貼る基準：①自分が主体かどうか  
②学びや情報を提供したかどうか



- 授業交流の回数、ポイントともに上昇している。
- 異学年間の交流を行った教員もいた。
- 取り組みやすい交流方法で、負担を感じることなく継続して行うことができている。
- 交流方法に大きな偏りが見られた。
- 教員によっても差があった。



## 研究課題Ⅰ：同僚性を生かした日常的な授業交流

授業交流で話をするとき、視点が多いと深まらなかったり、時間がかかったりすることがありました。今回、授業改善の視点を「出会い」と「振り返り」に絞って取り組んだため、授業交流でも焦点化して話をすることができ、短時間でも深まりのある対話ことができました。



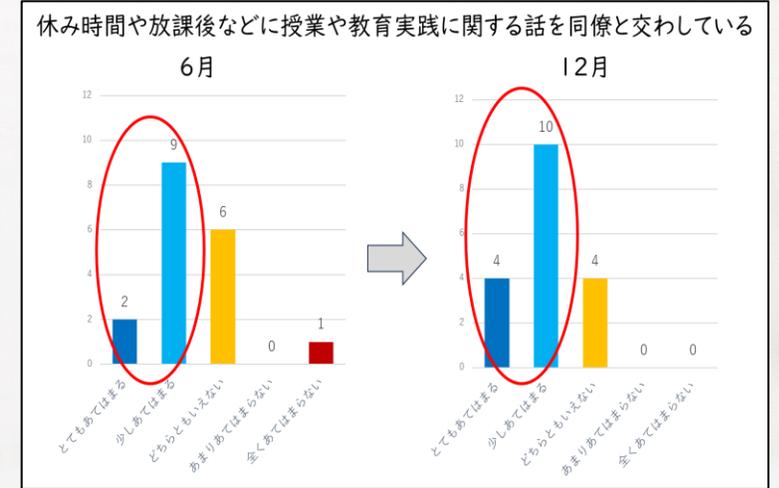
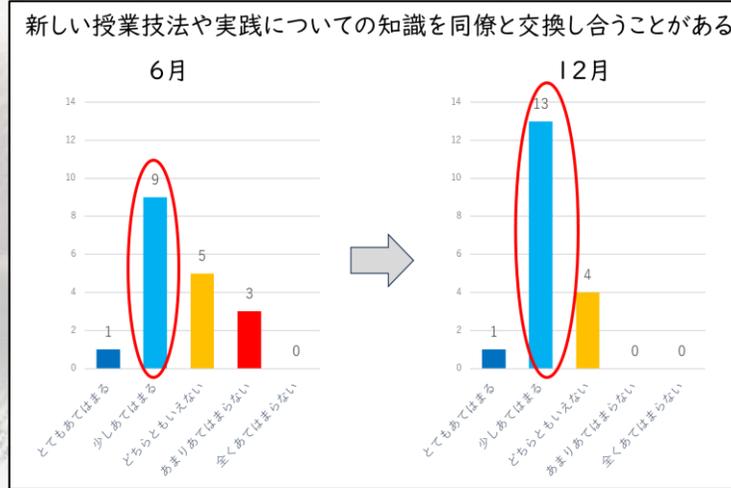
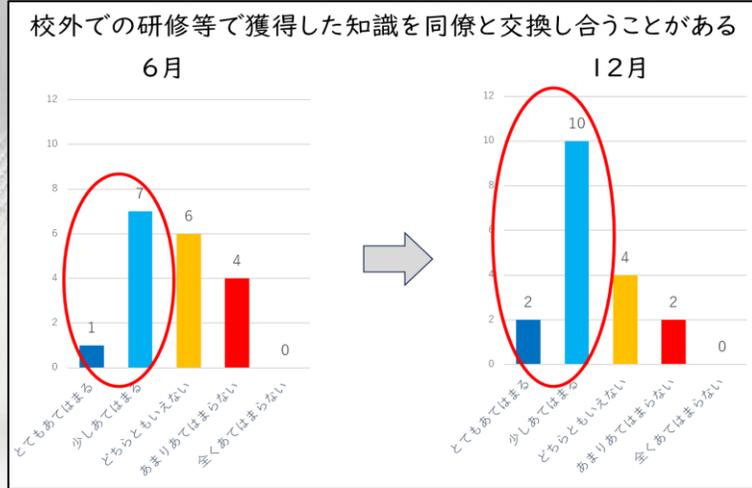
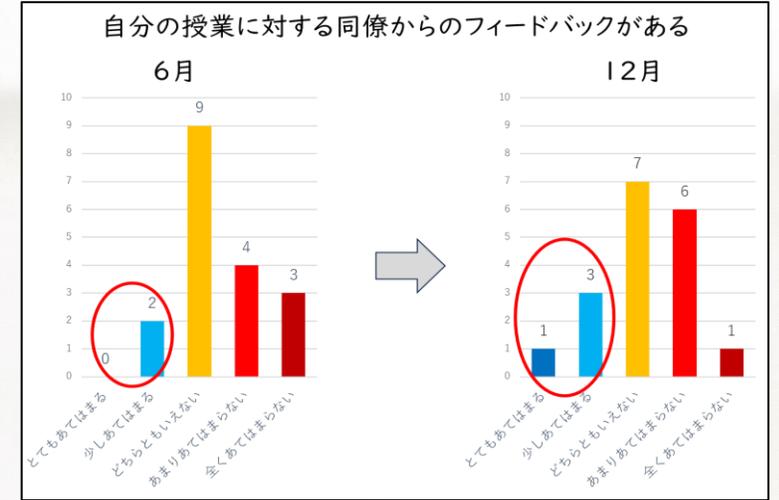
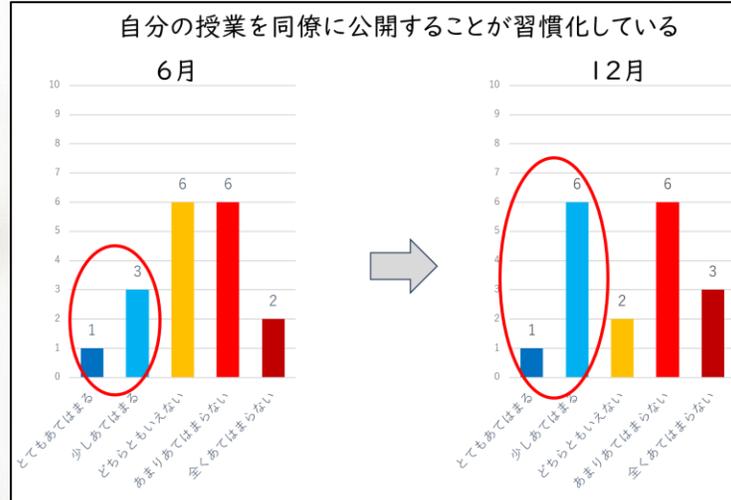
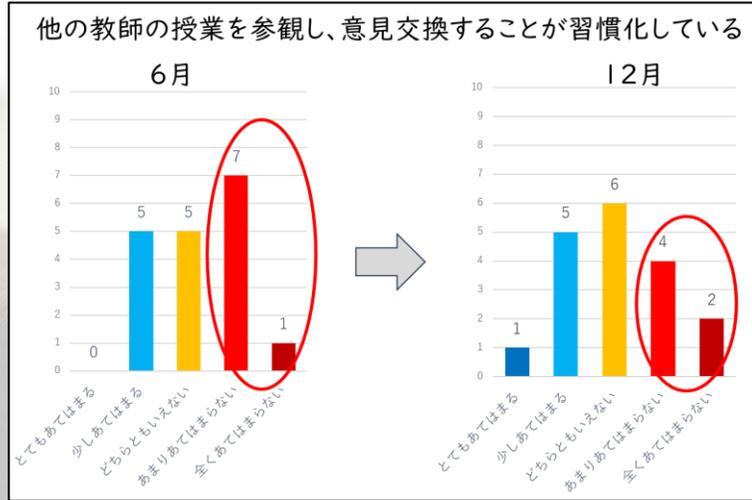
何度か授業参観型の交流を行いました。「導入の10分だけ」「振り返りの10分だけ」という部分的な授業参観は、45分の授業参観に比べると負担が少なく取り組みやすいので、回数を増やしていきたいです。



昔は職員室で授業の話をよくしていて、そこで学ぶことが多く、自分の力になりました。授業交流は若手にとってもベテランにとってもすごくいい取組だから、これからも続けていくべきだと思います。



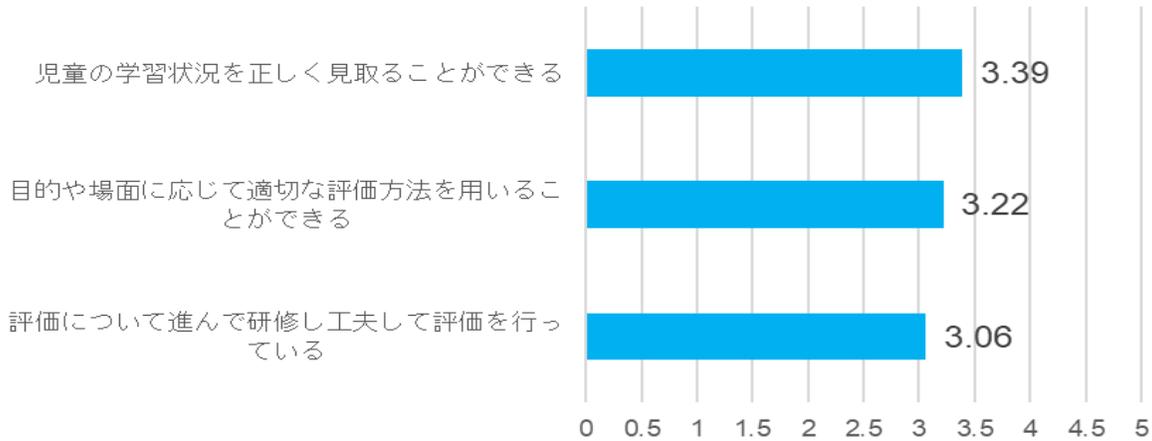
# 研究課題1：同僚性を生かした日常的な授業交流



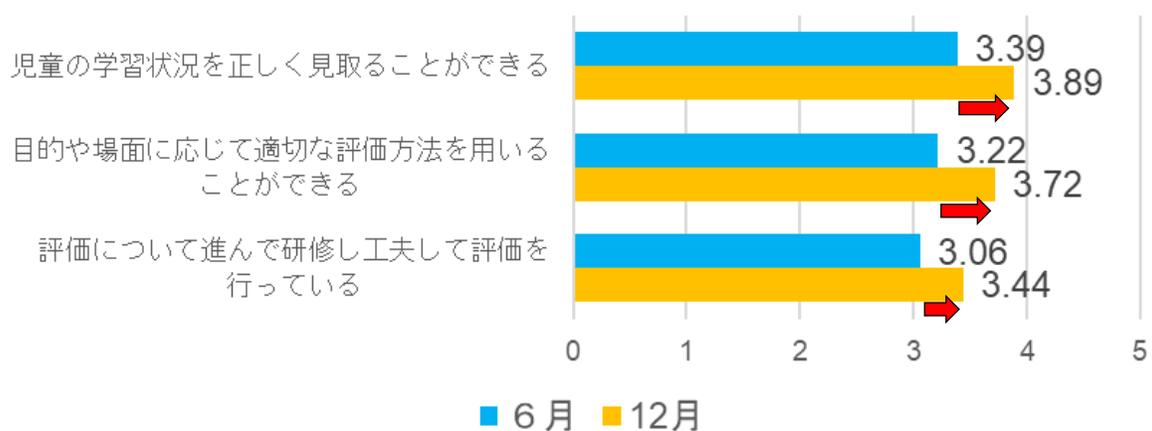
日常的な授業交流を通して対話が増えたことにより、社会的エンゲイジメントが向上した。

## 研究課題2: 課題とニーズに合わせたOJT (評価)

評価に関する項目 6月 (n=13)



評価に関する項目の変化 (n=13)



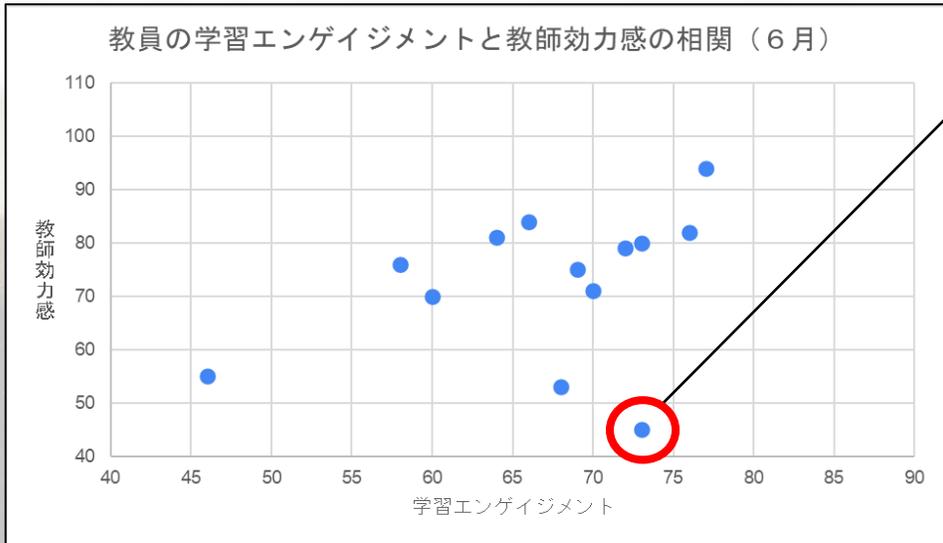
評価に課題

〈9月校内研修〉

- 1 評価の観点について
- 2 形成的評価と総括的評価について
- 3 評価計画立案の演習
- 4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について
- 5 算数科における評価の実際
- 6 児童の自己評価について

評価に関する全ての項目で数値が上昇しているものの、他の項目に比べると依然数値は低い。

## 研究課題2: 課題とニーズに合わせたOJT(若年教員育成)



採用2年目の若年教員



教師効力感が一番低い

〈若年教員への伴走型授業支援の内容〉

- 1 毎週算数の授業を参観し、省察的対話を行う。
- 2 教材研究の際にアドバイスを行う。
- 3 先輩教員の授業と一緒に参観し、省察的対話を行う。(伴走型授業参観)
- 4 2年目の教員が初任者の後輩に師範授業を行う。

### 伴走型授業支援のポイント

- ・授業のよかったところを伝えることで、学習エンゲイジメントや自己効力感を高める。
- ・若年教員の授業中の姿だけでなく、教材研究や授業準備等の授業に臨む姿も称揚する。
- ・省察的対話で改善点を伝える際、具体的な方法や代替案を提示し、今後の授業で生かせるようにする。
- ・教材研究の際、若年教員には見えていない教材の価値やおもしろさ、授業のポイントを伝え、教材研究をさらに深める。
- ・ベテラン教員が授業をどういう視点で見たかを伝え、若年教員の授業に対する見方を広げる。
- ・2年目の若年教員が初任者に授業を公開し、省察的対話で自分の思いや考えを伝えることで、学習エンゲイジメントと自己効力感を高める。

## 研究課題2：課題とニーズに合わせたOJT（若年教員育成）

### 伴走型授業参観・省察的対話の実際

A先生の授業から、  
どんなことを学んだかな？



ベテラン教員

子どもがたくさん発表していて  
すごいなと思いました。

対話を取り入れていたのが  
いいなと思いました。



若年教員

見えていないことが多い

本時の課題を子どもからうまく引き出していたね。

子どもたちの意欲を高める仕掛けに気付いた？

授業のポイントになるあの言葉を、どうやって  
子どもたちから引き出したかな？

あの発問をしたことによって、子どもたちの  
発展的な思考が促されたね。



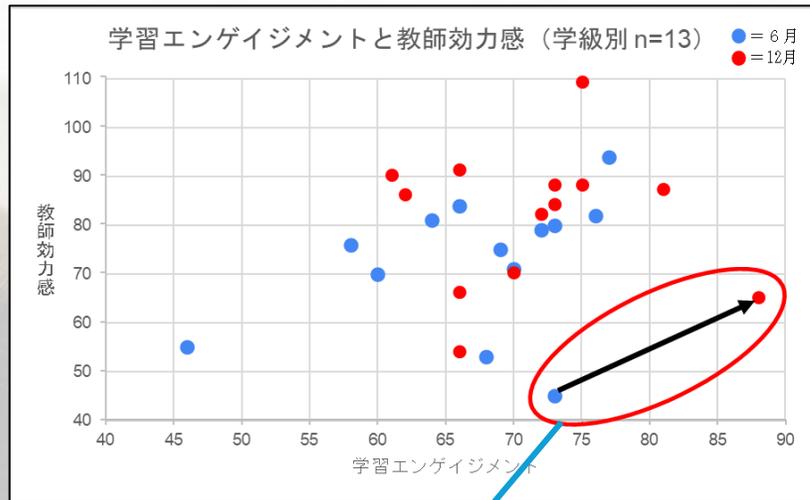
子どもに対話の必然性を感じさせる工夫があったね。

みんなの思考を深めるための問い返しに気付いた？

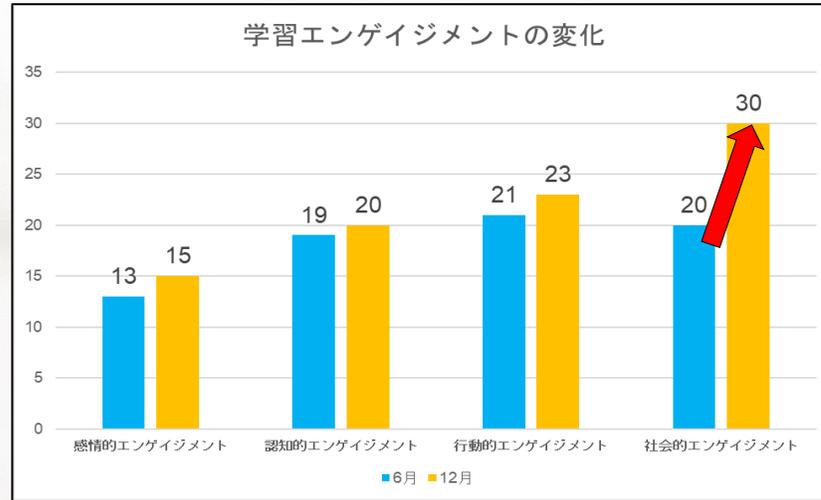
なぜ先生はB君のつぶやきを取り上げたのかな？

机間支援のとき、C君の考え方のよさを  
わざとみんなに聞こえるように先生が  
つぶやいていたね。

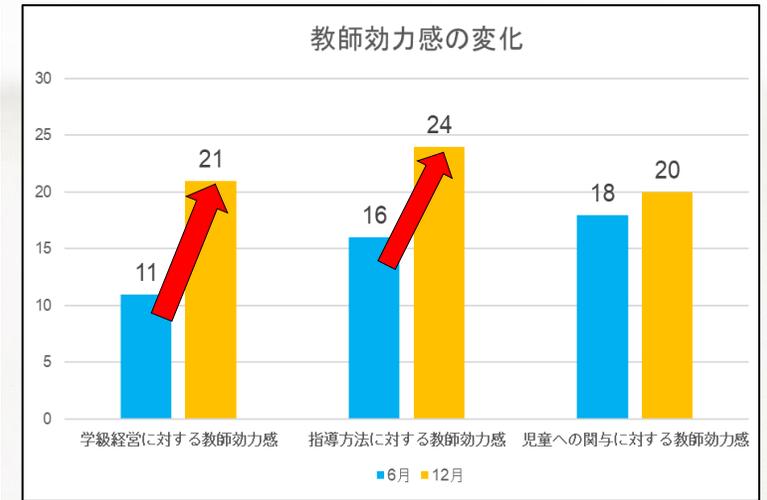
## 研究課題2：課題とニーズに合わせたOJT（若年教員育成）



学習エンゲイジメントと教師効力感が大きく上昇した。



学年主任や他の先生と積極的に授業交流を行い、社会的エンゲイジメントが大きく上昇した。



授業中の児童の姿に変化が見られるようになり、自信につながった。

教材研究で大事なポイントを教えていただいたので、単元を通して一貫した指導をすることができるようになりました。教材研究で、題材をどう工夫すれば子どもたちが興味をもつのか考えることが楽しくなりました。単元末テストでの子どもたちの得点が高く、指導の効果が表れたのがうれしかったです。算数のおもしろさが分かったので、これからも自主的に算数を研究したいです。



# 研究課題2: 課題とニーズに合わせたOJT (授業改善)

## 校内研修

### 導入の工夫

1年

日常生活の中から、意外性のある教材を用意する

実物を出す

作品などであれば、完成を見せる。

写真や絵を提示する。

頑張れば達成できる目標を設定させる

活動の流れを示して見通しを持たせ、単元の最後に身に付く力を伝える

「どんなことをするんだろう?」「どんなことをするんだろう?」と思わせるような場を設定しておく。

どのような技なのか?想像させ、興味をもたせ、やってみたいと思わせる。

結果(到達)を教えにおいて、どうしていったらいいのだろうと投げかける。

6年

「学びたい」という気持ちをくすぐる

楽しく!

ニュース・出来事・行事など生活に関すること (道徳・社会)

子どもたちの生活に結び付くもの (道徳・社会・算数)

簡単な問題・既習問題から本時の課題に結び付きやすいもの (算数)

わざとうまくいかない場面をつくる (算数科)

あえて、しんどい課題を与える → 楽に簡単にするには? (算数・体育)

興味を引くような資料の活用 (社会科)

体育科 陸上競技: 低い記録から測定する。例) 走り幅跳び 立ち跳び→3歩助走→5歩助走→記録会。記録が上がる楽しさにつなげる

実物や絵本の活用 (国語科・生活科)

純粋な物語の感想 (国語)

題名に着目 (国語科)

国語科: 題名からどんな話なのか想像させてから、教材文を聞かせる。

4年

小川先生に教えていただいた、三段階でやる気度を書き、授業の終わりに頑張りを自己評価させた。

外国語では、1時間ごとに、振り返りを行い、レッスン(単元)の終わりに振り返りカードを提出する。

算数では、単元の終わりに分かったこと、これからやってみたいこと、頑張ったことなどをノートに書いていく。

算数では、授業の終わりに本時で大切なことを口頭で、発表する。

道徳では、毎時間、振り返りカードに心の変化があったことやこれからの生活に生かせるようなことを書いていく。

5年

Googleフォームで、アンケート式で2つ自己評価と算数日記を書かせた。素早く全体の様子が確認できた。

体育では、ペアで動画を撮影し、それを見て何が身に付いたか振り返りを書かせたり、知識としてわかったけどできないことなどをふり振り返り、スライドに書かせたりしている。

挙手で頑張った人など、発表してなくても考えることを頑張った人など、最後に聞いて自己を見つめる機会を設けている。

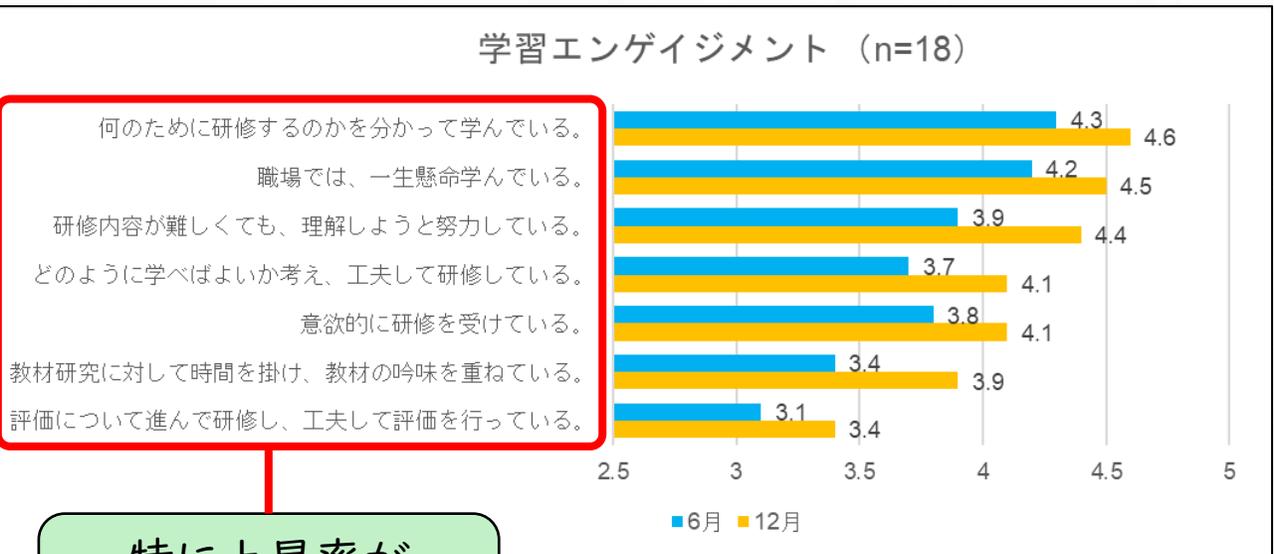
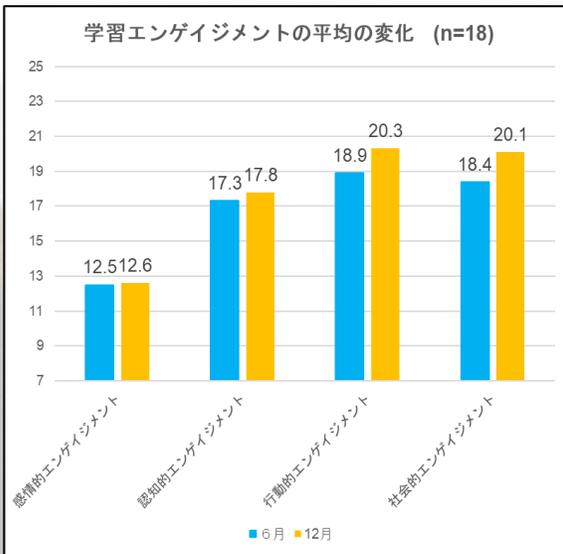
単元の終わりに、ノートやプリントに書かせる。(音・家)

単元の終わりに、ふりかえりをプリントで書かせる。(何がわかったか・どのように思ったか・どの方法で学習したから分かったか) (国・算・社)

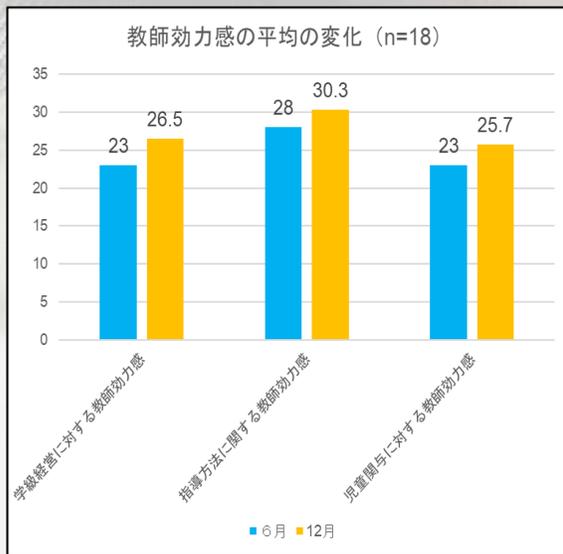
### 振り返りの工夫



# 研究課題2: 課題とニーズに合わせたOJT (授業改善)



特に上昇率が  
高かった項目



研修の必要性を共通理解したうえで取り組んだこと、教員の課題とニーズに合わせたOJTを行ったため、研修に対する意識・意欲が変容している。

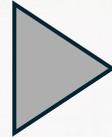
具体的な事例をもとにした研修や日常的な授業交流が即実践につながるものであり、取組によって現れた効果を教員が実感して自信につながったと考える。

# 研究課題3: 「出会い」と「振り返り」に焦点を当てた授業改善



## 題材との「出会い」

- ・ 教材研究で題材（内容）の価値を把握
- ・ 興味・関心を高める題材の工夫や仕掛け



## 課題の「追究」

- ・ 悩んだり、深く考えたりするような問い
- ・ さらに意欲を高め、主体的に学習に取り組むような仕掛け
- ・ 学びを深める問い返し



## 学びの「振り返り」

- ・ 本時の学びの価値付け
- ・ 次時の学習への意欲化
- ・ 発展的な思考の広がり

# 研究課題3: 「出会い」と「振り返り」に焦点を当てた授業改善



児童の意欲や主体性をどう見取るか？

自己評価「やる気度」チェック

【第3時に出会いを工夫】  
算数やる気度(5点満点)

	1時	2時	3時	4時	5時
A児	3	3	5	5	4
B児	2	3	4	4	3
C児	5	5	5	5	5
D児	3	4	5	5	5
E児	4	4	5	5	2
F児	2	1	4	3	1
H児	1	2	3	2	2

出会いを工夫したら  
変化が見られた!

【第1時から第5時まで工夫】  
算数やる気度(5点満点)

	1時	2時	3時	4時	5時
A児	3	3	4	4	3
B児	3	5	4	4	5
C児	3	5	5	5	5
D児	3	4	5	5	5
E児	3	4	5	5	5
F児	2	3	4	3	2
H児	2	3	3	5	3

工夫したのに…  
題材がよくなかったかな?

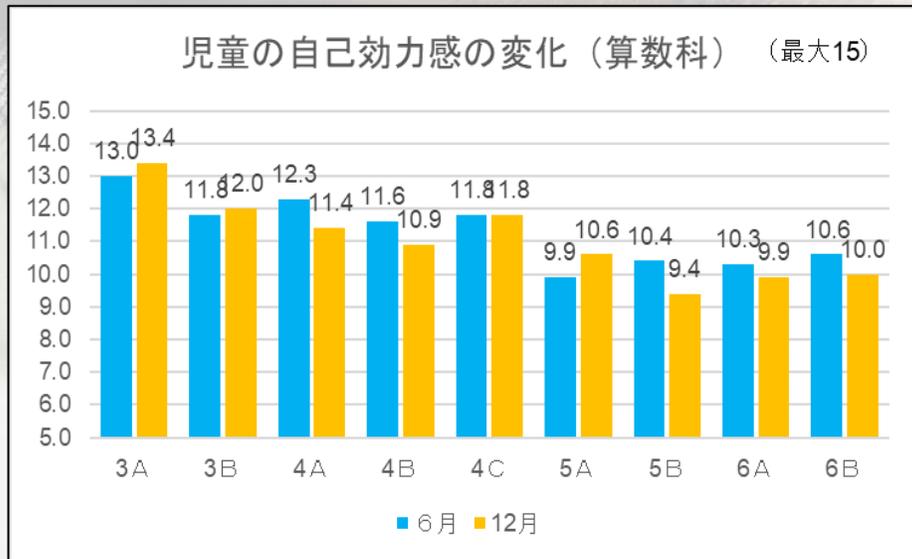
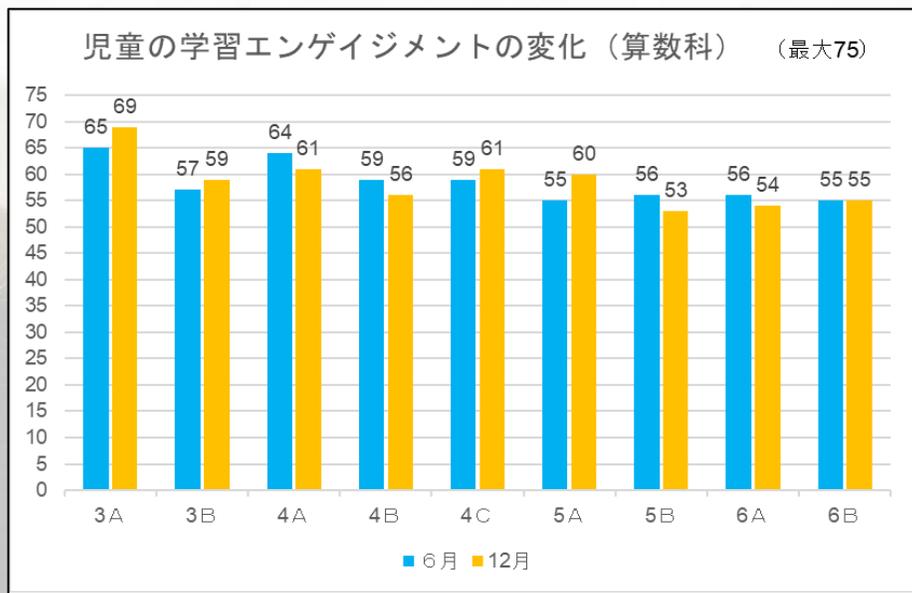
いつも低い子に  
変化があった!

やる気度  
チェック

正確な内面  
の見取り

授業改善

# 研究課題3: 「出会い」と「振り返り」に焦点を当てた授業改善



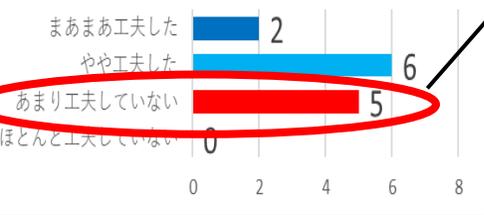
児童の学級間格差

取組の効果は検証できない

授業ごとの単発的・短期的な児童の学習エンゲイジメントは高めることができています。

教員間格差

「出会い」の工夫 (n=13)



「教科書の問題をそのまま使用することが多かった。」

算数が苦手な児童や、学習内容がすでに身に付いている児童の学習エンゲイジメントを高めるためには、題材の工夫が効果的

「振り返り」の工夫 (n=13)



「振り返りの時間がとれなかった。」

45分の時間を大事にする。時間を生み出す授業マネジメント力が大事。ICTを効果的に活用する。

# 考察

研究課題1 同僚性を生かした日常的な授業交流を行えば、教員の学習エンゲイジメントは高まるか。

- ・日常的な授業交流を通して対話が増えたことにより、学習エンゲイジメントが高まった。

研究課題2 教員の課題とニーズに合わせたOJTを行えば、教員の学習エンゲイジメントは高まるか。

- ・研修の必要性を共通理解したうえで取り組んだことと、教員の課題とニーズに合わせたOJTを行ったことにより、教員の研修に対する意識・意欲が変容し、学習エンゲイジメントが高まった。
- ・具体的な事例をもとにした研修や日常的な授業交流が即実践につながるものであったため、取組によって現れた効果を教員が実感することができ、教師効力感が高まった。

研究課題3 児童の学習エンゲイジメントを高めるために、どのような取組を行えばよいのか。

- ・「出会い」と「振り返り」に焦点を当てた授業改善が必要である。
- ・題材との「出会い」を工夫し、児童の興味・関心を高める取組を継続して行っていく必要がある。

# 実践的示唆

## 1 学年で話し合う時間の確保

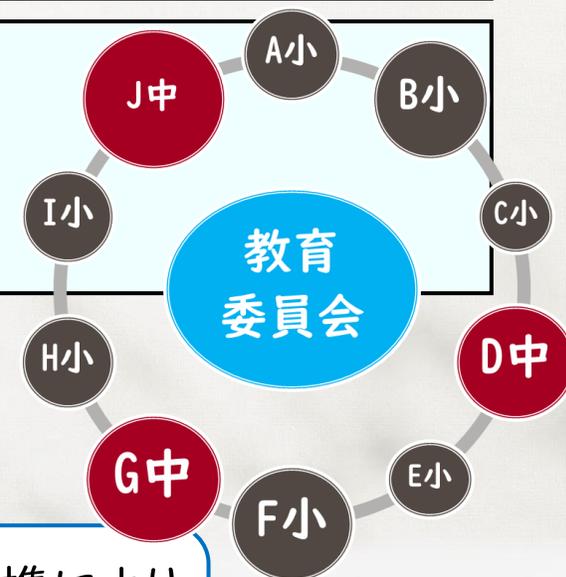
- ・学年で授業の空き時間をそろえたり、放課後に交流する時間を設定したりするなど、カリキュラム編成を工夫する。

## 2 若年教員育成のための伴走型授業支援体制の構築

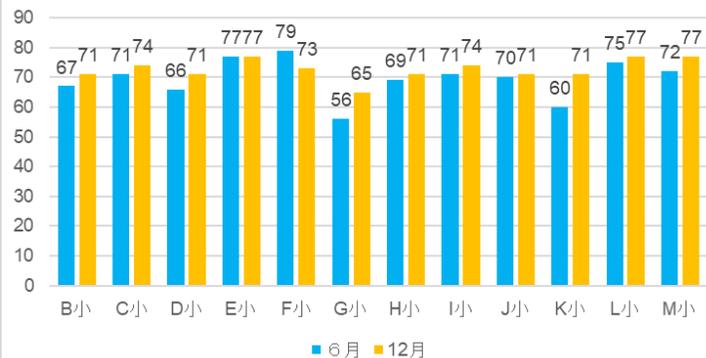
- ・所属の学年主任だけに頼るのではなく、同僚性を生かして他の教員も意図的・計画的にかかわるなど、組織を挙げた校内支援体制を構築する。

## 3 研修主任の相互交流を基盤とした市内研修体制の構築

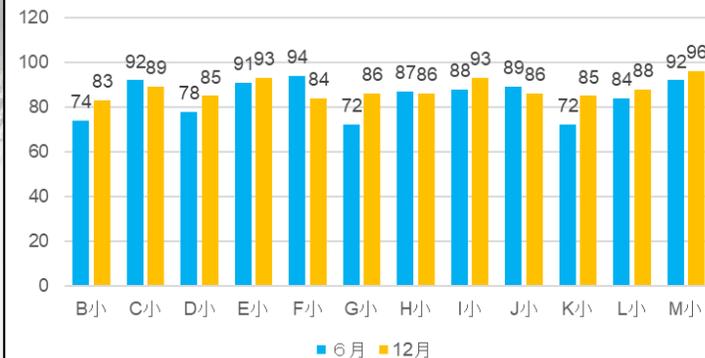
- ・教育委員会が主体となり、校長と研修主任合同の研修会を開催する。
- ・他校の研修に参加したり、研修に関する情報を共有したりするような環境をつくり、研修主任が学校の枠を越えてつながることで、市内各校の研修の充実を図る。



学校別 教員の学習エンゲイジメントの比較



学校別 教師効力感の比較



学校間連携により  
格差を解消

# 今後の課題

## 1 授業交流の充実

- ・学年主任がリーダーシップを発揮し、より質の高い授業交流を目指すという意識が求められる。
- ・授業を実際に見た方が学びは多い。今後は学年主任だけでなく、研修主任や学力向上推進主任、管理職の役割を明確にし、質の高い授業交流が日常的に行われるような組織を目指していく必要がある。

## 2 教員間格差

- ・教員の主体性に任せると、取組に差が生じる場合がある。忙しい中での教員の意識を変えることは難しいが、まずは行動することで後から学習エンゲイジメントが高まることもあるため、今後も継続して取り組んでいかなければならない。

## 3 児童の学習エンゲイジメントと学力の関係

- ・今回は児童の学力と学習エンゲイジメントの関係を検証することができなかった。今後は、学力検査等を活用し、この取組が学力にどのような影響を与えるかを明らかにしたい。

## 4 教員の時間的なゆとりを生み出す環境整備

- ・今の校内体制では人員が不足しており、対応に限界がある。外部人材を取り入れたり、教員を加配で増員したりして、教員の時間的なゆとりを生み出すことが必要である。

# 引用・参考文献

- 鹿毛雅治(2013). 学習意欲の理論 動機づけの教育心理学 金子書房
- 川上泰彦(2021). 教員の職場適応と職能形成 ジアース教育新社
- 久坂哲也・中嶋彩華(2018). 小学校教員の教師効力感と教員経験年数の関連の予備的検討 日本教育工学会論文誌, 42, 57-60.
- 櫻井茂男(2020). 学びの「エンゲージメント」 図書文化
- 町支大祐・脇本健弘(2021). 教師が学びあう学校づくり -「若手教師の育て方」実践事例集- 第一法規
- 露口健司(2012). 学校組織の信頼 大学教育出版
- 露口健司(2015). 学力向上と信頼構築 -相互関係から探る学校経営方策 ぎょうせい
- 露口健司(2016). 「つながり」を深め子どもの成長を促す教育学 ミネルヴァ書房
- 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所 共同研究プロジェクト(2021). 子どもの生活と学びに関する親子調査2021 <https://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=5703>
- 中原淳(監)・町支大祐・脇本健弘(2015). 教師の学びを科学する データから見える若手の育成と熟達のモデル 北大路書房
- ベネッセ教育総合研究所(2022). 小中高校の学習指導に関する調査2022 <https://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=5812>
- 文部科学省中央教育審議会(2015). これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～(答申)
- 文部科学省 TALIS(OECD国際教員指導環境調査2018)
- 文部科学省中央教育審議会(2022). 「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～